

8月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市における2016/2017シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

主な結果 横浜市における2016/2017シーズンのインフルエンザの流行は、AH3型ウイルスが早期から主流となり、シーズン後半には両系統のB型ウイルスが混合し、長期間流行が続きました。病原体定点調査での分離・検出数の割合は、AH3型ウイルス75%、ビクトリア系統のB型ウイルス15%、山形系統のB型ウイルス9%、AH1pdm09ウイルス1%で、B型ではビクトリア系統のウイルスが優勢でした。

AH3型ウイルスの性状はワクチン株に対する中和反応性の低下が66%（30株中20株）にみられ、変異株の割合が高くなりました。HA遺伝子系統樹解析ではすべてサブクレード3C.2aに含まれ、さらに4つのグループに分けられました。

ビクトリア系統と山形系統のB型ウイルスの性状はワクチン株と同等であり、HA遺伝子系統樹解析では前者はクレード1Aに、後者はクレード3に含まれました。

AH1pdm09ウイルスの抗原性状は昨シーズンと同様ワクチン株と同等であり、HA遺伝子系統樹解析ではクレード6B.1に含まれました。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症のまとめ -2016年分離株について-

細菌担当では、市内で発生したカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症の解析を行っています。今回は、2016年に当所に搬入された届出対象56株および届出対象外の17株（院内感染関連株、医療機関からの精査依頼株）について、結果を報告します。

主な結果 カルバペナーゼを産生する23株の腸内細菌科細菌のうち、IMP-1型が20株とそのほとんどを占め、NDM-5型が2株、IMP-11型が1株でした。IMP-1型は、関東地方で多く分離される型になります。NDM-5型は主に海外渡航歴のある患者から分離される型ですが、近年国内事例より分離される散発例が散見されています。本市の事例の患者も海外渡航歴がありませんでした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページでは、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成29年7月は、カンピロバクター感染症、大麻（マリファナ）、クロストリジウム・ディフィシル感染症、パラインフルエンザウイルスに関するページのアクセスが多くみられました。総件数は117,716件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。